

農業士と連携した新規就農者等の支援

■ 農業士・青年農業士、認定新規就農者 ■

(西讃農業改良普及センター 宮崎勝、○玉井康平、岡田紗和)

●対象の概要

西讃管内の農業士、青年農業士は55名が認定されており、西讃地区農業士会を組織し「新規就農者の支援」と「地域農業の振興」を目的に活動している。

一方、新規就農者数は過去5年間40名前後で推移しており、県内の新規就農者数の3～4割を占め、今後の農業を担う若手農業者の参入が非常に活発な地区となっている。

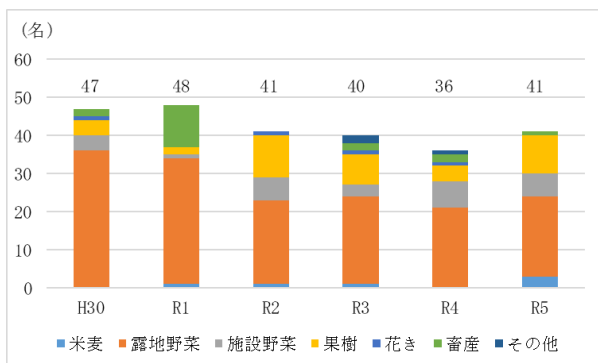


図-1 新規就農者の推移

●課題を取り上げた理由

西讃管内の就農相談者数は過去5年間で増加している(表-1)。

しかし、近年の各種資材等の価格高騰による初期投資の増加や農産物価格の低迷による収益減少など様々な理由から相談者が就農を諦める例も多くみられる。

そのため、新規就農者等を地域に定着させるためには研修段階から身近な相談役である農業士と連携を図り支援していく必要がある。

表-1 就農相談数及び相談者数

単位：回、名

	H30	R1	R2	R3	R4	R5
相談延べ回数	27	71	83	170	183	122
就農相談者数	22	38	50	69	67	48

●普及活動の経過

1 農業士と連携した相談の実施

市やJA等と連携した定期的な就農相談会を開催するほか、就農相談者が農業士の意見を聞ける場を設けた。



農業士と連携した就農相談

2 里親登録の推進

新規就農者の里親登録制度は、令和3年度からスタートした制度で農業士を中心に登録され、各品目の里親21名が登録されており、研修生のサポート体制が構築されている。本年度は3名を新規登録し、新たな品目のサポート体制が充実した。

3 お試し就農研修(短期研修)生受入の推進

短期研修を希望する就農相談者等に対し、希望する作物をもとに里親とのマッチングを行い、令和5年度は8名のお試し就農研修を実施した。

4 長期研修受入の推進

短期研修の結果を考慮し、独立後の自らの経営に生かせるよう長期研修の受入れを推進した。

研修生が希望する品目や就農地等を考慮しながら令和5年度は3名のマッチングを実施し、里親である農業士のもとで研修をスタートした。



里親での長期研修

5 各種研修会の開催

(1) 経営能力向上研修

農業士から、「新規就農者は先輩農業者のほ場を見るだけで勉強になる」という意見があったことから、新規就農者の経営発展に資するため農業士のほ場での研修会を夏作と秋冬作に分けて開催し、多くの品目で早期の技術習得を図った。



農業士の栽培ほ場での研修(夏作)

(2) 農業士と新規就農者との意見交換会の開催

新規就農者が孤立しないよう、就農予定者同士や新規就農者と農業士との意見交換会を開催し、身近に相談できる先輩農業者との関係構築を図った。



農業士と新規就農者との意見交換会

●普及活動の成果

1 長期研修への誘導

短期研修を行った後、将来的に独立を希望する研修生に対して長期研修へ誘導するとともに、活用する事業、研修カリキュラムや就農に必要な技術を明確化させることで効率的な研修を行うことができた。

また、農業士と協力し就農計画の作成を支援することで、無理のない就農計画となり、順調に経営をスタートできた。

2 就農後の早期の栽培技術習得

農業士と連携し、就農相談会、意見交換会、研修会を通して課題を把握し、個々の新規就農者が習得できていない知識や技術について検討した。具体的な改善策を講じるとともに今後の栽培管理方法や来期の計画の見直しを行うなど個別指導を行うことができた。

3 現地研修の充実

西讃地区農業士会と連携し、農業士の現地研修の回数を増やし季節ごとに開催することで多くの品目の指導につながられた。

また、現地ならではの指導や栽培の失敗談を聞くことで、新規就農者の課題解決につながった。

また、新規就農者と農業士との新たな研修受入のマッチングにつながった。

●今後の普及活動の課題

1 農業士との連携強化

研修先から離れた地域で就農する場合、農業士からの直接指導回数が少なくなる。

電話やメールを活用した指導を行っているが、直接指導のように上手くいかないこともあり、作業や対応の遅れにつながっている。

今後は、就農地が離れた場合の指導体制を確立する必要がある。

2 課題の早期把握

一見、上手くいっているように思える新規就農者でも決算書を確認すると順調でない場合もあるため、定期的な簿記指導により経営状況を把握するとともに栽培面と経営面の両面から継続的な支援をしていく必要がある。